令和6年度神奈川県中小企業生産性向上促進事業費補助金

＜採択事例＞

CASE 8

生産性向上補助金で、シャフト形状部品用転造機を導入し、生産性が向上しました！

株式会社ミズキ

（業種：金属加工業）

神奈川県綾瀬市小園 717-14

代表取締役：水木　太一さん

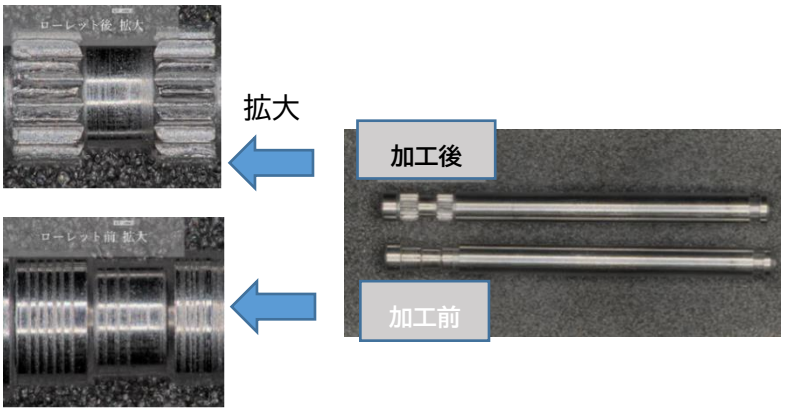
【社長より一言】

1939 年に都内でねじ製造メーカーとして創業、1994 年に綾瀬市に移転以来、30 年以上にわたり多くの国や地域に、ねじ、シャフト、ギア等、精密な締結部品を供給しています。現状の納入先は、レシプロ自動車関連が約 55%、カメラ関連が 25%、ＨＤＤ関連 15%程度ですが、いずれも市場の縮小が続いています。今後は成長が期待されるロボット、ドローンを含む航空宇宙関連など、新規市場での受注獲得を図り、事業の安定と発展を目指しています。

◆導入した設備

◇部品の自動供給装置付き
　シャフト形状部品用転造機

◇導入した設備で回り止め加工をした製品



◆生産性向上のねらい

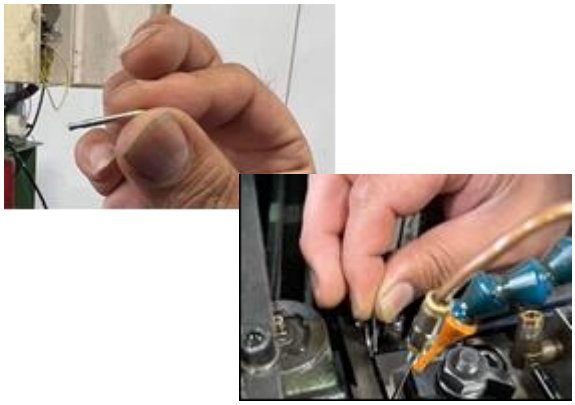
設備導入前の課題は、①手作業による高コスト化、②生産能力の限界による機会損失、③品質のばらつきでした。
設備導入することで、①～③は解消され、さらに EV 車、主に自動運転機構用部品関連の受注拡大を図り、事業の安定、高収益化、業界最高レベルの賃上げの実現をめざしています。

～🖉神奈川県取材ノート～

社長の自社製品に懸ける思いや営業分析から目指す方向など、勉強を怠らないという精神が伝わってきました。
取り扱っている製品は、上か下か判別つかないほど小さな部品で、次々と生産されていく工場を見学させていただきました。業績が落ち込んだ時こそ不良品（異物混入）をゼロにしようと会社全体で取り組むなど、常に前向きに見直しながら経営されている姿が素晴らしかったです。

●設備導入前の状況

製品となるシャフトは数ミリの細くて小さなもので、そのシャフトを転造機と呼ばれる加工機にセットするには、小さなシャフトをつまんで、上下方向を確認し、転造機に差し込む必要がありました。
このため、１本の製品を作るのに約６秒、最大4,800本/日と、生産能力は限界に達しており、品質やコスト、納期で競争に勝てず新規受注の獲得が困難でした。



○設備導入後の状況

設備導入により、数ミリの部品の自動挿入が可能となるとともに、センサーにより不良品を空気で弾く機能も取り付け、メーカーと一丸となって作った設備になりました。
これにより１本の製品を作るのに0.8秒で、さらに無人運転が可能となったことで、24時間稼働させ、最大10万本／日にしていけるよう生産性向上を図っていきます。

◆補助金を申請する前に悩んだ事、大変だったこと

当社は、色々な補助金に採択して頂いてきましたが、その殆どは中小企業診断士の資格を持つ優秀な担当者が社内にいてくれいたからでした。しかしながら、昨年その担当が体調不良で退職となってしまい、代表の私が自ら作成していますが、その際に、ＫＩＰ県央支所に相談し、よろず支援拠点県央サテライトの診断士さんをご紹介いただき、双方からご指導頂きました。

◆補助金を申請してよかった事

設備導入後は、社内が一丸となって、新しい技術に挑戦し、様々な得意先要望に対応して、試作を重ねてくれ、ノウハウを集積できている事が、最大の収穫であります。

◆最後にひとこと！

モノからコトへの時代、本当に大ピンチの連続ですが、あきらめずにあがいていれば、絶対に「救いの手は差し伸べられる！」そう考えて、これからもモノづくりを極め、地元の発展に貢献できるよう、努力して参ります。

MIZUKI 精密ネジ・シャフト・精密締結部品
株式会社ミズキ